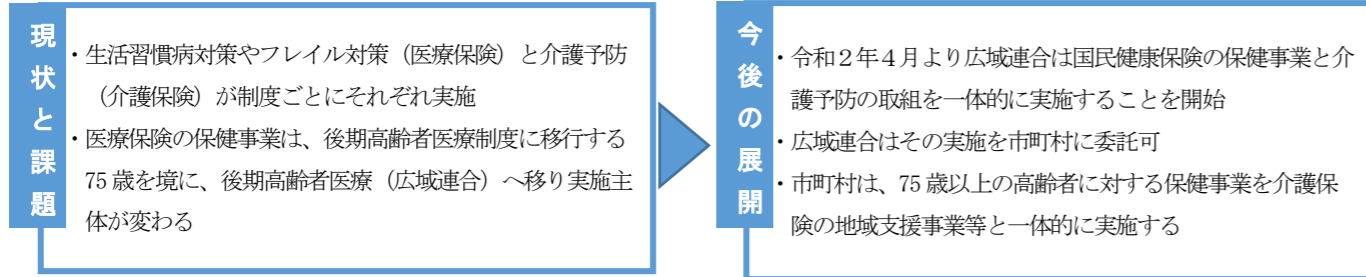


# 令和5年度新規事業「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」

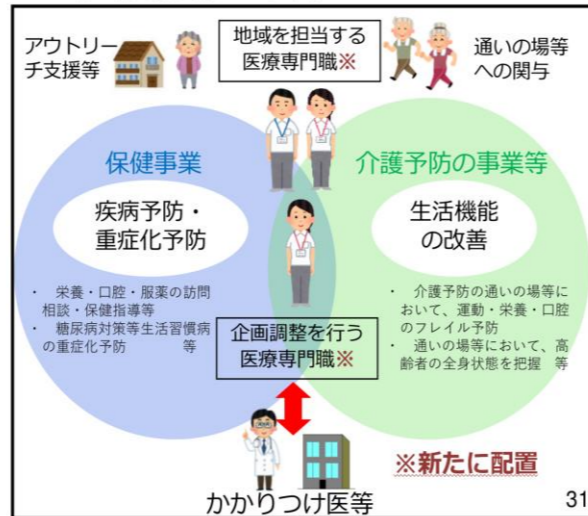
## 1 高齢者の保健事業と介護予防の今後の方針について



### ▼保健事業と介護予防の現状と課題



### ▼一体的実施イメージ図



## 2 事業目的

保健事業（生活習慣病対策・フレイル予防）と介護予防（地域支援事業）を一体的に実施することで、高齢者の心身の多様な課題に対応し、きめ細やかな支援を行う。

## 3 根拠法令

高齢者の医療の確保に関する法律第125条第3項

## 4 運営方法

愛知県後期高齢者医療広域連合の広域計画に基づき市町村が高齢者保健事業を受託

## 5 豊山町の実施体制

主担当課（受託元）	保険課国民健康保険・医療グループ	事務局
関係課等	福祉課、地域包括支援センター、保健センター、保険課介護グループ	業務連絡会を実施し連携を図る
医療専門職の配置	企画・調整等を担当	福祉課（常勤 保健師1名） データ等の分析を行い対象者の抽出、地域の健康課題の把握、事業の企画・調整・分析・評価等
	地域を担当	保健師、栄養士、歯科衛生士（非常勤） 通いの場等において健康講座等の実施、個別訪問

## 6 後期高齢者の健診データ・医療データ・介護データからみる豊山町の分析結果

- 健診受診者のうち、血圧が受診勧奨値以上の者が45%を占めている。
- 千人当たりの新規生活習慣病患者は、高血圧症が2番目に多い。また、特に狭心症、動脈硬化が増加しており、高血圧による合併症が考えられるため、血圧コントロール、動脈硬化予防の必要性がある。
- 外来及び入院の千人あたりレセプト件数から、脳出血が増加しており、血圧コントロール不良から起因する可能性が考えられる。また、今後脳疾患を原因とする要介護認定者の増加のおそれがある。
- 要介護の有病状況のうち、心臓病、高血圧を有する者の割合が高い。要介護認定率増加の抑制を図るために、高齢者の血圧コントロール・動脈硬化予防が課題である。
- 週1回以上運動をしている者は半数を占めるが前年より減少傾向にある。
- 低栄養所見者（BMI 18.5未満）が増加傾向にある。
- 千人当たりの新規生活習慣病患者は筋・骨格が1番多い。また要介護の有病状況の3位が筋・骨格であることから、要介護認定者の増加を抑えるため、筋・骨格の強化が必要となる。
- 健診、医療、介護レセプトなしの健康状態不明者が、R3 101人（5.2%）→ R4 136人（6.7%）と増加傾向

### 令和5年度の重点課題

高血圧の合併症発症予防

筋・骨格の虚弱予防

健康状態不明者の実態把握

## 7 事業実施計画

区分	① 個別的支援 (ハイリスクアプローチ)	② 通いの場等への積極的な関与等 (ポピュレーションアプローチ)	
対象者	令和4年度健診受診、医療未受診、介護認定なしの者（健康状態不明者）	既存の高齢者の集いの場（老人クラブ、住民主体サロン）の参加者	集団の後期高齢者健診受診者
実施内容	保健師による個別訪問	保健師及び栄養士による出前健康講座（健康教育）	保健師及び歯科衛生士による健康教育
	健康及び生活状況を確認し以下を実施。 ・健診及び医療受診勧奨 ・各種制度や地域の社会資源などの紹介	講座① 「高血圧の合併症を予防しよう」 講座② 「元気な骨と筋肉を保ちましょう」	・フレイル予防等に関する健康教育 ・健康相談 ・地域の社会資源等の紹介
評価	・モニタリングし受診状況等を確認 ・健康状態不明者の推移	・生活習慣の変容状況（健康講座受講者のみ） ・要介護認定率の推移	

・その他 町広報やイベント内で啓発活動を実施

## 8 地域の医療関係団体等との連携について

広報依頼や情報提供、報告、協議会等での事業企画・評価への助言・指導等の連携を図り事業を実施する。